57X
27
60

こてう

五うら 并一

哥さ詞と名づけ

東洋文庫

[illegible]の二月[illegible]

やまひのまけうあるうの[illegible]はひ。[illegible]の[illegible]の有福

[illegible]ふ[illegible]れのいろ。鳥乃

声は[illegible]

[illegible]山のこぐち[illegible]

うけの[illegible]色ちぐ[illegible]西の[illegible]色[illegible]

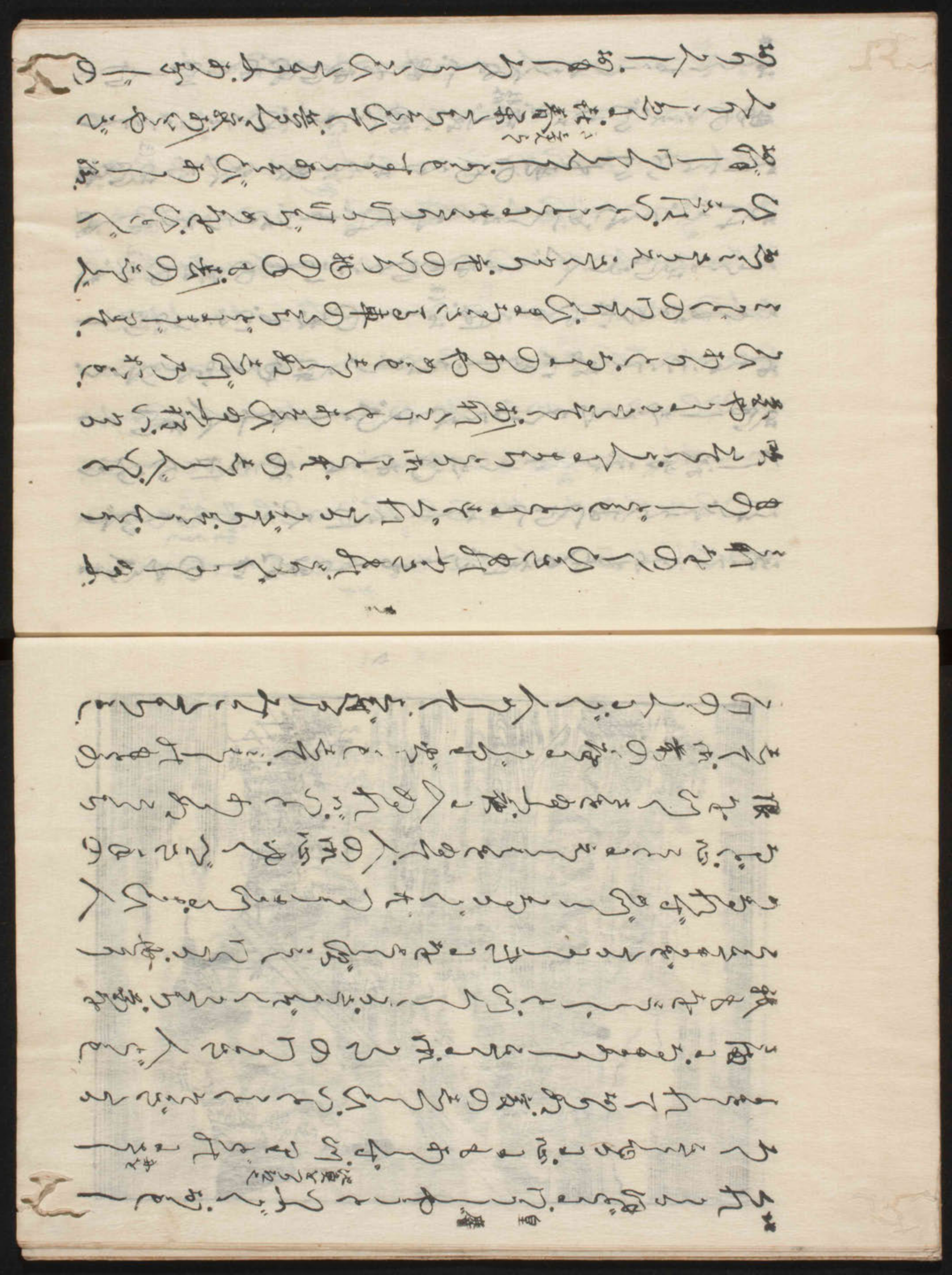
[illegible]べ[illegible]

[illegible]

[illegible]

この京のあり所（秋野）しんぞうせんと申すしのつまへど、
りいでるくてうるうるひつう、京とまてあそ
びなべさるるバ、ワ（秋野女房）うさ女房こちの物ものでし、池
ぞさ成、舟よのをなつて、これこのいけ（秋野の方の池）に池
ふきをつけるさきをなへる成、ちいつさき山を
ぐそのきさこをきをこれば、その山のさ成ふりこぐ
まひて、ひんぐーのりうとどれる（望の方）こちるさのワさ
へぐあつあさきをなる、（道うどうげさ高）野野鶏首をこうこのをそひる。
ふくくさうこちるひて、ぐちりうはさまるまくんべ。
れこぐゆひて、まろうぐをて、ちうはゆさ
ちる池の中よこう出されぐはふとのちるはふる

ちこうん四ちうて、家ようなもちろくこをかくこうめ女房
ちぐつさる、中（ちぐ）鳴のいりえのいもこげこさこうをて
うれバちるさいりーのこずまひも、そぐ成るこい
さんやうりうまるさうちるさすこあひこる指ぐ。
まこさをひさいつきるるなまへのるこふちりぐ
ちこやられて、文をちるこうう御枝をれこうふも
えもいまあ旬ひをちりこうはこ成さるこ成さ
こう柄も今こりこ成ゆこうこうとめぐれこう苗の
いろもこうまやこるひくけゆさこるこまて池の
水ようげをこうひしこうやまぐさ、苗こうこ成れて、
いこうぐさこうりぐのこぐひをこるれぐ



はなぐもこしくくへめ、ゑもあけめあさぼらけの
雪のうえげりを中ぞ定い物へぞくれてうこさてし
てそういけもきのひうをそえめへ分ほ毛
ちれぐこころをつくるおとすぐれまちるさをあれ
こそなぼを人へぐもありけるこにうの盛の姿む
こもるされあり海おとのももひぐこいぼし
あぐめこそて結れそしこぐこられせそ笑いぐく
ぼしこもをうくこうろうびうの人なるる
ぐし我身ぐろりとこひあぐり活こけのめと
こそこりよつけつそこらば人ぐとりいぐ
こそこめもあり名しもうちあ中のこひュ

もうめべさつうこんぐちちぐもあ人ぐしこうちる
このこうをこうぐで内のなるいるのれ中れちぐし
こうあべこりあ年アつのえもるこうぐろなりけう
こうろのこもうをめひてこのこをせぐり ひこを
ずこうてわびめへぐこけぐりていまいこうぐこ
めあげこもいこうこうこぐれして あぐのし
れをこぐてこうびこうぐこうこ色られ海いと
なうなぐも姿こうこ海れこうこるこいる姿ぐ
をあてこうこぐ姿をけこうめれこうけの川いぐ
ゑいこうこうもてこるやこトミのあて心ぐこずいこうう
ゑぐるこいこうこへぐこうやとすこひあ

ひとさとのゆくへよりは心をとゞめられぬべかりけ
るげんゐやいかりけさとて（源氏）なくなくの君よりはなれて
ぐしをとて（源氏）なれのまゝいとうしはゆくこゝのそて
ゐちこ（源氏）ゐちこ紙をげいべしやとこのそうを君乃
あうをさうさうでこゝとゝとゝちよとぐ光の人べ（源氏）え
ちあぐれ給ふでげ（北）さのれあそびまうていと
面白しうふかい中（秋好）宮のこゝどこゝをうのそうで光ちり
ゐうやどてまうで給ふでやすゝ家とり川ゝひ去
れらゝひよう人のまゝ人でもあるうゝさるまあるは
まうでちどもこのまゝむまれはばうるよれあるゝ（秋好）
あう給ふ（源氏）ゐのこゝをちうでめうてまうりてゝれつさ

ひうりのまゝ君ゝ人ちとも（源氏）ゐりちゝまいうゐはゝは
おゝいのれいゝはひよゝまゝちゝれのてゝやゝしゝぐと
ちゝいうゝうゝゝれありゝ風ちり君のゝ人（紫）ゝれ
心ゝゝよゝ伝ゝ君ゝてゝまりけゝゝをのまゝゝとゝてゝあうり
ゝうゝぞゝゝゝひゝうゝひゝゝゝべゝ人ゝゝゝちゝぐゝゝゝゝ
ゝしのゝへゝゝせのゝてゝゝりゝまゝはゝゝろゝるゝのゝ君ゝゝ光ゝゝ
ゝゝゝゝ

ぐ。こるやうるとつるさえてうけの水鳥を。
そこもとるくさえけりとつるよそうこちら
はけりかはどおそ。おそもとうこてふいまてぐ
るとさ風ふとびとうてやまづさのまをのを
とうこそこぼれうる菊のげまひぐれ

家のすがたをうつしてさまざまの人々がろくさうつ
くりつくりよのなかをさくらのはをるがごとふ
るまひやまがさがごとくしもうちあへ
るやうるり柏のもとをいとろさひとうこ
ざるうどうぎくのふ中程のあるはあちのはを
るがごとくへて水のうえをぞくくげけのふ鞠久り文句さの上
を踏るちうめべくくそは
鞠
こうまのもとをそられるまくろあるそ八重
むがさをへだてざりきばとぞありけるぞられう
上つうこと
れらうどもよりやうのごとくをえめるやありうん
ちうやうよりてこうあれちうけさどもあれ

まことやれこもの〜あ[illegible]遊女のこいこれりこ
あるとりまれどもこせのふるとさやうのこと
ここれがむつ〜おうれりけるてもが
やうのこころされあそびこびくこつをやつそて
すぐしのへばこつあんもなれげこまれちひ
るさやちそてゐんこるこうるるもえうこ
のふまの墨のれこさしこれうれあんとりは
封面のちいこるこまもえこしのふまきれ
ころまちねやおこくもいこまあんりこさ
いどらうありるつころるこへこここそへの
ぶへころべくこまもこ海もあれば

ウナ

いつこまこれころをここてのへりここて
ひとをはひといこあまこまれこ法されどなこぐなばろ
けこなばここぶむべくもあこぶつがれころこを
すこうこなやうこうここれこうろやこふん
ちこなどこまこをやこてまこるここうる
なりくもあり義の中ねのすこりのちくこすま
もこるこまこうてれむいこへこげこ男し法ねど
すこもしこまこうなばもどこうべここはどく
へどもこりここしこれが中ねもすくこしこて
ひもうこず西のなはいこのれ表ごらいこれ表る
ひこれてここげこ色ごこまびありこ紙こもの

あるにはあらでさてさて心ぐるしうちんまさく
のあやまちさるにはなりうつくしれと人にはれぬ心よう
なれどさやうにまことに学問をなすびと人のようちとけ
元こ学こ活心むけちゑ（らうこげよワやうなる）
まとはちけれどれちゑ（タ沼）のけそひまいとうく
なりてこれいうどめつこう有そひさる（紙月こ三表之）ゑうちも
ゑへのつまあこうおこうまれうこうはひこここの
ゑ色ちゑさへおやさこうこここちくめここ紙
ほのどやうおりまさば（ほ）ようけのれあそびよて
さこうゑ（ほ）ゑのれ（む）うこうこへぐのれあここけく
ちりりを（ほん）さここうこうはそども

中十

とれば濃り濃りけうこうはれうへ
そぐのこうこうこうまひるどすを（ほん）ちとけそ
こうこいこちるはいこう（ゑ）り（ゑ）ちのこやのはどちく
つこれけまこさまひごちそはどこさあれ見ちへ弟
れ文を（ほ）ちこけてこうまやうはつこひこうまあ
（河）ちやこうちへけるこちるはこちのこうこちち
れ中（ゑ）び（ゑん）をちんこうこまちつこそこひしこ
こけやうのすちのこちちんこうこへぐてこちあ
ちひてやこちをこちれすちちこうすこゆへ弟心
ぐへをこうこれこここ衣こもはゆれれちをれ
こうちはこ学へちへこうこもゆへあこん女乃これ

[illegible]
せるあぶらをいとそこなうあらはれぬべくやと
わらはへいかでなひめぐくはしたもとへどけん
もくのこあぶらをうりかたたのいとくまあやうう
とくとさとさを面しうあらはへの山ひの山はそて
のそうれまびけぐさ乳色ようれへそうるさ家
るようとそこれそくくのあ中ようしろ
もるぐのうこのうとるうしうこあうぐまか
へるをうとはそくらうるうむすびさうあうそれい
いうれぐくひとぐれそうまうあうこあうあ
へうこいうくあうしうそ

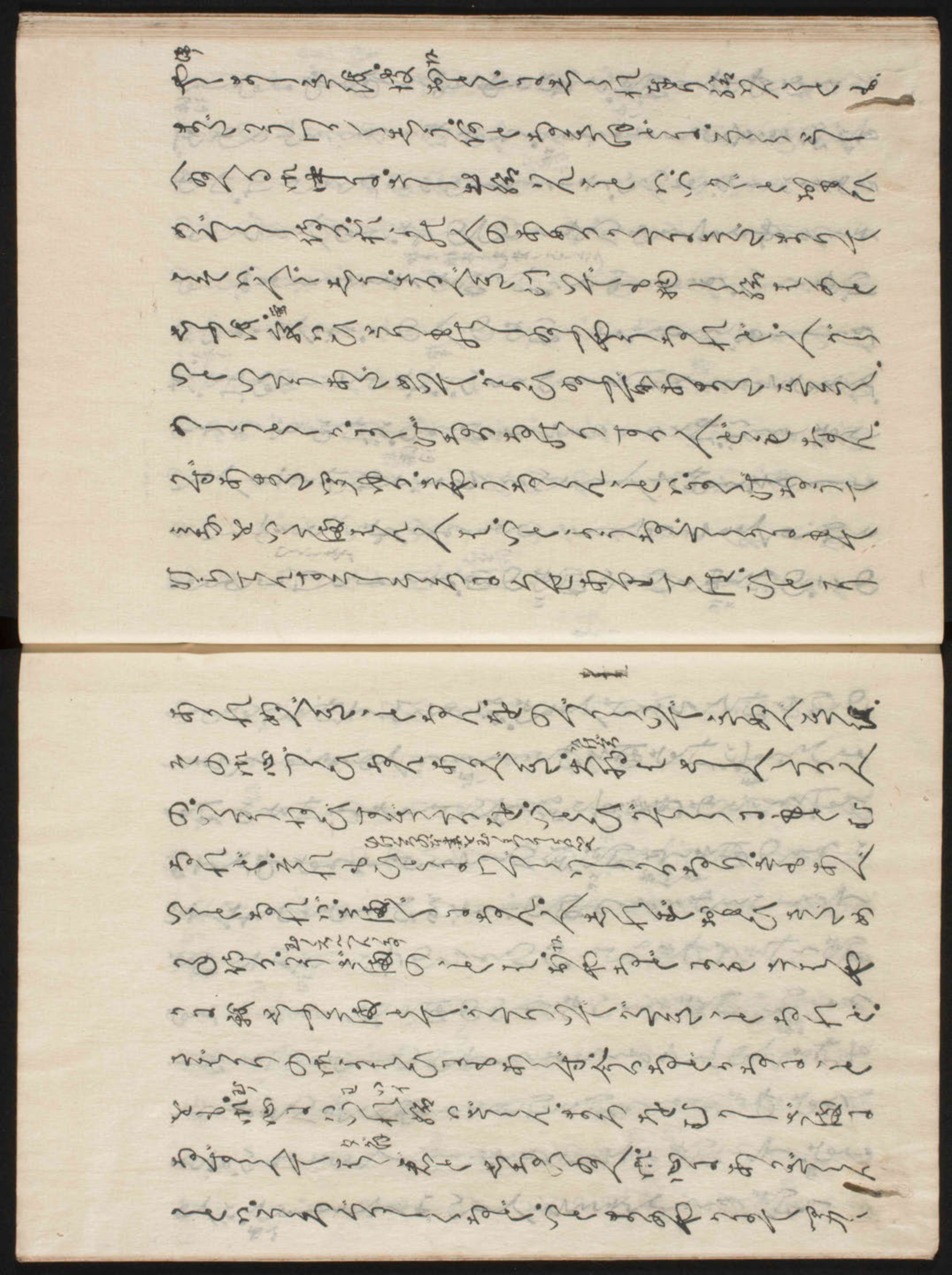
水色しそれぐうさぐ面のあうしうそぐれる
正これもいうるうぐとひそくくのへぐそうく
ちうあれまそそくぐ結そぐ方をめいぐそうやうう
ととづれそそくんひとをぐひとそうしていへへ
ちぐいそそもすさぐそうあぐれぐうしさいま
やうのくのびんるいそうをすうをのこ
のそぐこもあくめくとるうぐそひしこある
ちうけあうのうのうもくそれりこそむぐんるう
まやまいうぐ面しうへぐるそそくけやけう
ちぐもあぐくれけぐそあうめくそれてある

つけるこころざしは、こころ深くうまれてこころひとを
中〻心づかひやうもあり、まことに見れぬる人
なりのとぐいあんまれ〻こうどうれるをさう
ぶとこころこころえこころもさこでありぬべ
うけるのちのるんとありぬべきをさるすべて
本のまれつくこそ、こころのまゝよまれ〻衣もこう
ぶかけうあるこゝをもこゝんちるんそ本
けもりあぢきなるべき法家方ねいはあるる法
さりぶこれうむのつべきこゝもあるず又あまる
ものはぶこゝあやうるんもれありこ面こさが
へうこゝこゝもいこころぶこのをもむこゝ

きるひて、おそれをもつこゝまへらうをもうぞ人
まへるぶこゝこゝまへまへいたちをむこゝをすう
そだめうとあるゝげちうるぞこのはそるぶま
ひぶうの法のうるれこうちきおこひけぶうう
るまこゝまるもこはつへどおこうび
まへうゝるぶうこゝぶありまはるるう
このこいこまひうれへのあうこ面をこゝる
まふまこゝうとこ面ようるうびこゝけこうるども
心こゝまこつけまへれいぶくぶあうぬるふる
やうこうこけるうゝ人こゝれこんむふと
ちあゝこゝべうあばこゝをもうちるこゝけ

こをりて（左注）なやとぞ思ふ（注）
ますめりさすがにすべきやうもなくて
こうちとけひねりて（左注）ある人きれそうそて
ものいひつてうちとけぬべきまもなく
めりけれどさすがにひとえ入しきて
ゐめさうえんもいぶとそれ文だうりいれ
ちぶ伯めれどれうりいさうさせ（注）
ものふれぐらるんそれとごとうしるなば
いうとさこ（注）ものそれつやるむもばぐき
ゐいこぐそいというこうゐうくゐれとば
ゐこてゐんどれば（左注）いうれ（注）いしうわくとめて

まうまけうこそ西のなかの中ねのこの
ふふうこうを（つゝみを）まとまうるこまうけう
つゝ入て伯けうまぐきいうゐ人も伯ぐうしこ
こそと思ゆれば（注）いとうきこゐれげうるり
き。ふれぬうちをいうぐのとはちさるあん
ぶつと（ぐやう）いぐこの人（樣）のおぼくようすずしき
るぐまぐこそあはうれさう中まをいとこぐ
まうゐ人ありをのつくゐ（むと 柏本ともに書オリウ ニ）ちひあうすせまくそ
あれけちえんまいあこそこそひまぐゐいこめこ
形ありあこぐきうれちぐぐ（ぜ）ざんまうちこゐ結ばず（注）
うちるやうやと思ゆうをもなば（ぬ）ばこ命やあうんと



夕べ[ゆふ]ゆうてれいいくさそそんとも[ども]なく
ちぎいとはるくしるそもうそなばしてあるる
どもせひそりゆくさりけるほどうりあやなどい
うあもはよるくひゆくてとくもくもふのくくれず
なんさそそくゆくそ面のいとおいくるれば[ば]げこと
なばいそ[そ]さくいせのくくとひのらけあやとそれくなば
いそさそうるくぬいざーのほどもそあくりてそ
ゆくてんやなどうちくそひゆなば[なば]とそ面のくとい
まばゆくれどそうちくでゆくりず多色あくくばく
とそくまをのへど[ど]くらあそ面ちれば[ば]ずろく
ちるげうれてつうゆなへうさくれけの

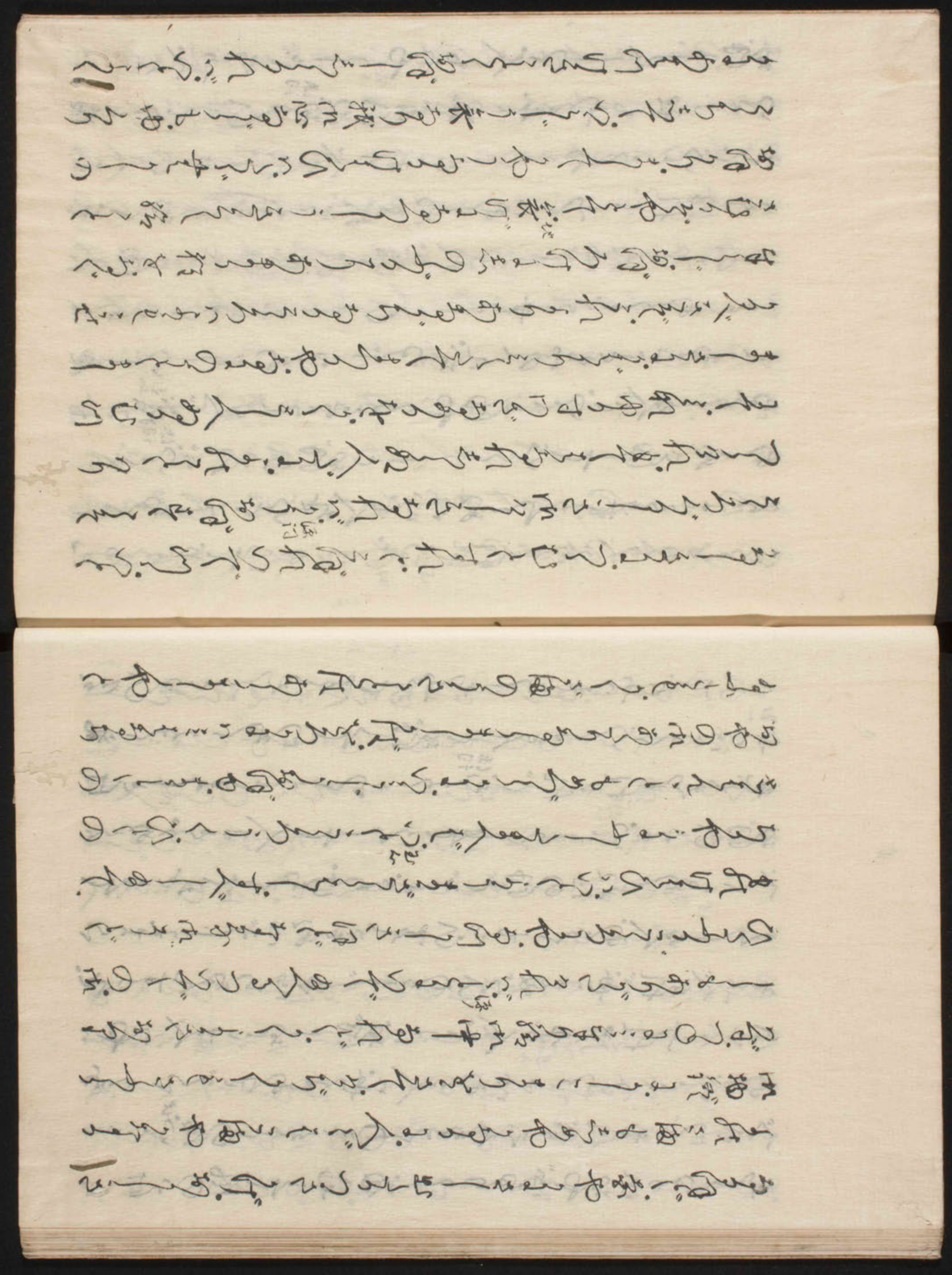
いくつわやくるあひくそてうちちびく面のとわ
くくそそうちくまりくまて
ほ
まをのうちるれるくくへくけのそれ
とのがくくやあひいつえさ[そ]なへがくくそて
えいくとぞくくくすをひさあげて実のへど
ひ
ねざりいて
ひ
今そそくいうちるんせうつけのあひそでめ
けんれをがくぐんせ中[ち]くそゆくめとそそて
ほん
ゆをいくく表とそくりそうかくうちのうちるは
ほん
さをおまずくいうるんりそそくしいでんと
ほん
すくんとくうちまくくる表れど[ど]くれおとぐの

いろ〳〵人のいとあり
がたくさぶらひ給ひ
もてはやされ給ふ
るしずやとゝ世間
ありさま世中のあり
さまをこゝろ
うらゝとこゝ
ろのべうば
ものうへ
人のあり
もてけ
ゝ
この
うらゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

ぞくさるよりぞくさむしこゝろをくて　すぎつるうらゝ　ぬを
くてこゝろうゝ　夢ちやとのゝさひをすをみう紙
をそをそをぶまぶをれ　ぶをうゝむをよとゝぶ　紙
ををへをまへれぶ　やうをもをひうゝ　ぶをぞを
ゆうゝ紙ゝくうゝて　ぶゆれゝぶゝをうをゝ　ゝ
ををゝしゝゝ

袖のう紙うをゝ　ゝうゝをゝをうゝをれのゝゝ人
をくゝゝをもをゝすれむつゝくをひて　ゝつゝゝ
をゝるゝゝ　ゝゝゝ



なほしくて人もあやしとうたがへられた
りしかもかくそのひめ（清汁）ぎみのうとくなる
ぞいとうらうらくくそあるべかれどその人も
うはれぐきくいあるめまれぞよがりちくそ
うるさくめ心ざしあれどひとしれずしのび通ふよ
うもあるべしかぐやひめ（清汁）はうしきなぐさめよ
とあるをうしとおもひたんなるべうらうらいつ風
とあるをうしとおもひたんなるべうらうらいつ風
ちぶしのへといとうとうとう

づきちらされ心のおちうさ庵をうとましうこのうたはも身ぞ心うりけるまさのあされ文とくあて
ちやまちびてて十名くれど人ぐれすぐるまぐ
まりてれくりとくと字ゆればさぐくまこのふ
ちろさこのうこべいおいつくるずくくしこる
いとめでうくふめつりさぐひちりしれてこき
こそづここもつこれぐてうつる人えなりけん
うちよそれもうあ物をワ苔のとあり
ぶよむすばくるくんおこちくこそものしのひ
れとこすぐよりやぐりふうれえ紫もいとくよく
とこちそれくりとこそこさんも人うのやし

少生作

さればうくうちちうこちのくるどこそうぶぐうけ
こ面こりぬこぐるとこうちのあうゆればうこを
ぬくのこあうようやうのこうこはこすぐよすく
よちりとけくちこそあるこちしのふを
ぐこそあるれ心れいろるもひこのちいけはぐれ
まのとけるこうこくひつくこさこて
のふとけるればいとぐあちこちてよさあ
ちこ地こひこそいつくちやまこうこへしのふ
くこそここの心こる人へいすくちるうてうこちもこる
ちこもむげのけやこ庵よこひ笑こうをこうやう
のこうこれまりこそいぐいこう人ワこれるよこさ

みるまゝあるべきられちらばかりちごの事のきりのよう
そそまゝあくしきれ心なく人まもあらざらん地の
ちまゝていとあはつけきまちこそ城さうんこと
とゝろげなやすげなる城しこぶる家たちあるく
ほとけれ色まそこそ
つくわんごろまこそ
おとくのゆゝしをこそ
つて城のすぎをいきこそ
ゆりこちこそ

中将